

地元の人でお金出し合い、
おらたち十六人が代表でお参りにきました。^{まい}



伊勢参りは、江戸時代
に大流行。日本全国か
らたくさん的人が伊勢
へやつてきました。旅
する人は道中記といふ
旅日記を記すことも多
く、全國にたくさん残っ
ています。五郎兵衛さ
ん一行も道中記をのこ
しました。

五郎兵衛さんの旅をもっとくわしく

天明3年(1783) 五郎兵衛さん一行がのこした道中記(意訳)

四月二十八日
新茶屋(今明和町)御師・三日
市大夫次郎様指定の宿で、駕籠
の迎えや昼めし、お酒のふるま
いがありました。翌二十九日山
田へやってきました。

四月二十九日
小俣の名物はたばこ入れです。

山田の三日市大夫次郎様の屋
敷に着きました。昼めしはお
茶漬でした。日暮れ時に、夕め
しでした。なお、太々御神樂の
お金については、全部で五十四
両でした。

参考文献:『安倍五郎兵衛天明三年伊勢詣道
中記』
(増田町文化財協会、一九九八年)



● 神楽の後のお楽しみ ●
神楽をあげた後は、豪華なお
食事を楽しみました。道中記を
もとに、当時の食事を再現して
います。



道中記を見てみよう!

五郎兵衛さんの道中記には、いつどこに立ちよったのかや使ったお
金の記録のほかに、あちこちの名物などについても書かれています。
五郎兵衛さんたちはみんなでお金をためて代表が伊勢参りに来たの
で、帰って地元にのこっていた他の人たちに話をするための記録をして
いたのでしょう。展示されているほかの道中記も見てみてください。

学芸員 太田さんのウラ話



五郎兵衛さんの道中記を参考にしつつも、到着の時間を午後1時ごろに、17人の人数を16人にしています。台所では、五郎兵衛さんたちの食事の準備をしていますので、ぜひ見てみてください。また、五郎兵衛さんは山田(今伊勢市)到着前に、宮川が荒れていたため川を渡ることができず、新茶屋(今明和町)で1泊したようです。

五郎兵衛さんたちの旅装束をじっくり見よう!

おんし みっかいちたゆうじろうやしき
場所 御師・三日市大夫次郎屋敷の門の内側

じょうぞく
時間 春(3月ごろ) 午後1時ごろ

江戸時代、伊勢参りに来た人たちは、御師という人の屋敷に泊まりました。御師は全国へ神宮のお札を配りに行ったり、神宮にお参りするために全国からやってくる人たちのお世話をしたりする人です。伊勢神宮には数百もの御師がいたとされます。三日市大夫次郎さんも、そのうちのひとりでした。伊勢へ到着した五郎兵衛さんたちが、門をくぐって三日市大夫次郎さんの屋敷の中へ入ってきました。

「笠をとって!」

御師屋敷に入る時には、こうした声がかかったようです。
五郎兵衛さんと仲間も、みんな笠を外して門をくぐっています。



てんじしつ
展示室でさがしてみよう

ひざ
雨や日差しをよける笠は、旅に欠か
せない道具でした。展示室にある
「旅の道具」を見てみよう。

(五郎兵衛さんの旅行計画)

- この日
- 山田へ到着
- 2日目
- 二見浦で「みそぎ」をする
※みそぎ:お参りする前に、身を清めること
- 3日目
- 外宮へお参り、「神楽」をあげる
※神楽:神を楽しませるためのおどりや音楽
- 4日目
- 内宮・朝熊山へお参り
- 5-6日目
- 古市や志摩へ
- 7日目
- 山田を出発し熊野へ

